

令和6年度



学校だより
10月号

令和6年9月30日

かわかみ

横浜市立川上小学校

横浜市戸塚区秋葉町203-2 電話 811-9345 FAX811-5961

実りの秋に ～子どもたちの育ちを見つめ、後期に繋げる～

学校長 堀部 尚久

朝晩の風が爽やかに心地よく感じられるようになってきました。本年度の教育活動も1年の折り返しを迎え、学校暦の上では、前期後期の節目となる10月に入ります。4月からの学びづくりや生活づくりを通してはぐくまれてきた力が、様々な場面で表れてくるものと楽しみにしています。夏休み明けからの子どもたちの様子を見てみると、生活リズムを取り戻し、学校生活にも落ち着きが見られる状況にあります。このところ風邪をひいたり咳が収まらなかったりなど、体調を崩して欠席を余儀なくされる子どもがいることも気掛かりです。

「スポーツの秋」「読書の秋」「芸術の秋」とも言われるように、この時期は何をするにも活動しやすい季節でもあり、学校での教育活動においてもさらに充実が期待される時期でもあります。「実りの秋」、子どもたちの育ちを「秋の実り」としてみんなで確かめ合い、子どもたちのさらなる自信に繋げていきたいと思えます。

ところで、6年生は、9月18日(水)から20日(金)まで、「塩谷・日光宿泊体験学習」を実施しました。栃木県で過ごした3日間を振り返ると、自分たちが決めためあてや計画を最後まで意識し、学校を離れた場所での自分たちの生活づくりが叶いました。初日は、奥日光湯滝や戦場ヶ原周辺の雄大な自然の美しさを肌で感じたり、世界遺産のひとつ日光東照宮・輪王寺の悠久の歴史や文化に思いを馳せたりする時間を過ごしました。そして、2日目3日目は、昨年と同じように塩谷町での農村体験を中心とする時間として据え、都会では味わえない現地農家での諸作業やアウトドアの活動の時間とすることで、川上小学校オリジナルの「体験学習」とすることができました。両日ともに、雨が降ったり止んだりという不安定な天候でしたが、朝食後からグループに分かれて各農家へ向かい、作業や活動の時間はもちろん、昼食も農家の方々の手作りの食事をいただくことで、農家の方々とのコミュニケーションの時間を増やすことができました。各農家を巡回したときの子どもたちの笑顔や、農家の方々のお話からもその時間の充実ぶりがうかがえました。本年度の体験学習も、子どもたちは、農家の方々の生業としての農業や作物に対するプロとしての思いをもって生きる姿に触れるとともに、郷土への愛着をもって暮らす姿に触れる価値ある機会となったことが感じられました。廃校となった木造校舎を改築した宿舎での生活では、寝食を共にしながら、これまで友達と築いてきた仲間意識の下、自分たちの手でよりよい集団生活を創り上げようとする姿が見られたことも頼もしく嬉しく感じました。友達への感謝や気遣いの言葉掛けとともに、みんなで改めることを互いに促し合い行動に移そうとする姿も随所に見られました。

川上小学校の宿泊体験学習は、当該学年だけの行事ではなく、学校全体で取り組む大きな行事のひとつであると考えています。それは、入学時から当該の学年まで育てている集団の力や個人個人の力など、様々な場面で必要とされる力がどのように培われ、発揮されているかという視点で、学びや生活づくりの状況を再認識する機会でもあると考えるからです。引率に当たった職員にとっても、当該学年の児童の育ちの状況を見取り、今後の学校生活に繋がる教育活動の価値や方向性を捉える機会でもあると考えています。また、帰校後に全校の子どもたちに体験学習の様子を伝えることで、学校での学びや生活が、学校の外でもしっかりと役に立ち活用しているということから、学校での日々の学びや生活づくりが大事であるということ伝える好機会となると考えているからです。本年度の6年生の子どもたちにとっても、普段の学校生活では得られない「人」「もの」「こと」などの様々な「かわり」を通じた体験が叶った2泊3日は、小学校生活でのかけがえのない思い出になったと確信するとともに、最上級生としての今後の子どもたちの育ちの姿が楽しみになりました。

前期もあと二週間となりました。4月からの学校生活の様子を振り返り、これまで取り組んできた学びや活動のあり方への価値付けをしたり、課題や努力点、今後チャレンジしていくことなどを整理したりしながら、後期のめあてづくりに繋がる支援の時間を大切にしたいと思えます。子どもたちは、日々様々な場面で「自分」を見つめながら生活をしています。ときにそれは、周りの人からの評価に励まされながら、喜びの姿として、また、戸惑ったり動揺したりするという姿としても表れます。その姿の中に、さらに「こうありたい」、「分かるようになりたい」、「できるようにになりたい」と思っている自分を思い描きながら、心の中でも『振り返り』(自己評価)をしている様子もうかがえます。子どもたちが、このように高みを目指し、今の姿を自分で評価しながら、確かな成長・育ちを実感するためには、周りの大人たちが、子どもたちの「自信」や挑戦への「意欲」を引き出す手立てや段取りを考えるなど、子どもたちの支え方を工夫していくことが大切であると思えます。

「実りの秋」を迎え、子どもたちが心身ともに、さらにまたひと伸びしていく期待も膨らみます。この時期にふさわしい、この時期ならではの活動を通して、子どもたちが自らの成長に繋がる自信をもち、学びへの意欲の高揚とともに、この時期だからできること、楽しめることにしっかりと向き会えるよう、私たちも引き続ききめ細やかな教育活動に努めます。保護者や地域の皆様方も、子どもたちの活動を見守り支えていただきながら、「実りの秋」これからの時期の子どもたちの「育ちの姿」を楽しみにしていただければ幸いです。